

晩秋近い高気圧後面でダクト発生

2004年10月18日～19日 JG0TEV 中村

晩秋近い高気圧が日本の東海上に遠ざかるタイミングで気温が上昇し、北陸地方を中心にダクトが発生しました。



午前中を中心に9～7エリア間オープン状態が確認されました



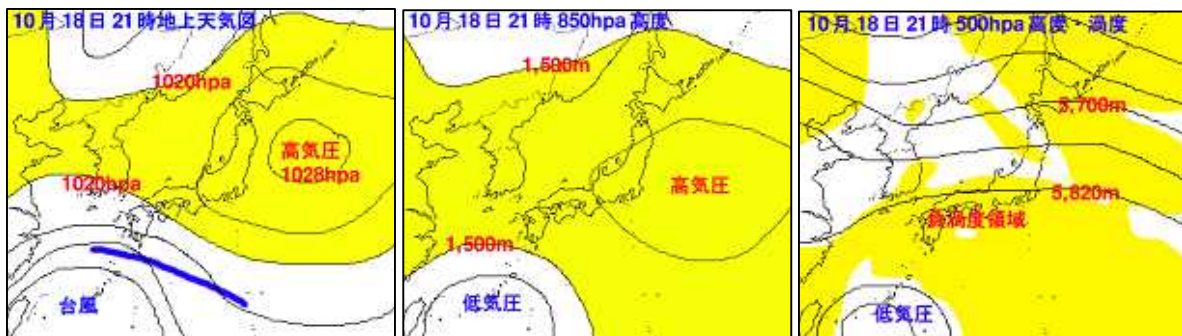
朝～日中にかけて9～7エリア間オープン状態が確認されました

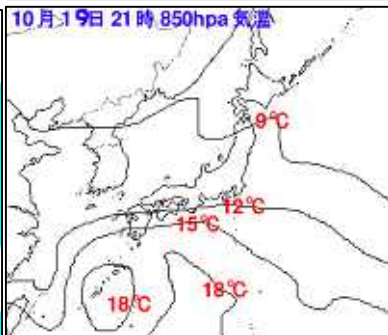
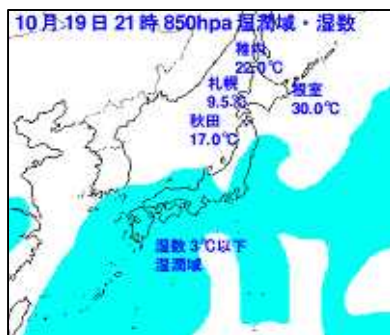
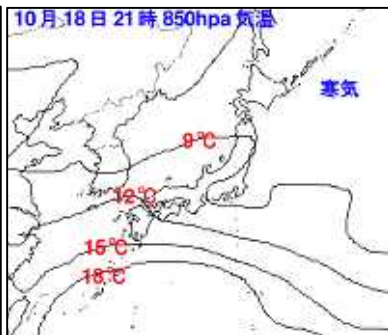
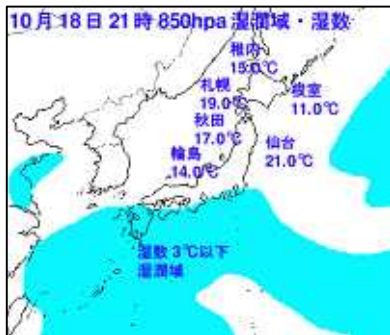
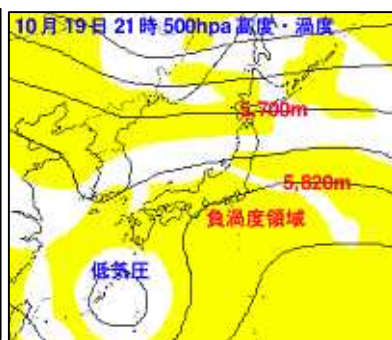
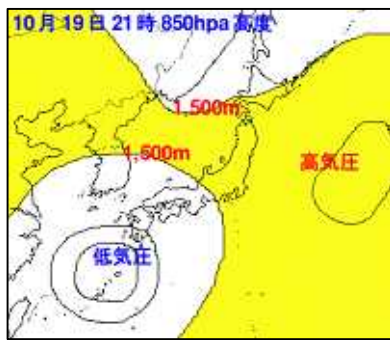
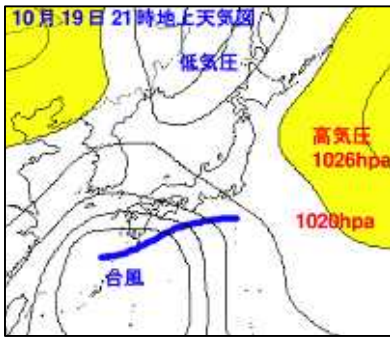
気象解析

地上天気図では本州の東海上に移動性高気圧があって、日本付近には南から暖かい空気流れ込みやすい状態になっています。

850hpa面では、日本付近の広い範囲で1,500mで囲まれた高気圧圏内に覆われていることがわかります。500hpa面によると、5,700mの等高線は津軽海峡付近にあって本州付近は高気圧圏内であることがわかります。

以上から、本州付近は高気圧に覆われていたと解析できます。





850hpaの湿数を見ると、北日本を乾燥空気の流れ込みが解析できます。本州の南海上は広い範囲で湿潤域の中にあります。

850hpa面の気温分布を見ると9°Cの等温線は日本海中部にあって、北日本は寒気に覆われていることがわかります。

以上のことから、高気圧圏内で乾燥空気に覆われ、気温の上昇した北陸・東北地方の日中帯でダクト発生条件がそろいやすくなったと考えます。